

第3章

プロジェクト研究

第1節 プロジェクト研究Ⅰ

1 研究の概要

(1) 研究主題

キャリア発達を促すためのカリキュラム・マネジメント
～新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築を目指して～

(2) 設定理由

1年次では、どの時期にどのような授業が行われているかを横断かつ縦断的に捉えて学習活動を設定するために、研究推進委員会を中心として「単元配列表」(案)を作成した。

2年次では、「単元配列表」と「シラバス」、「シラバス」と「指導内容表」の整合性が取れているかを確認して、おおむね修正・調整することができた。

令和3年度から新学習指導要領に完全に移行し、高等部もその内容に沿った指導が始まる。前述した「単元配列表」「シラバス」「指導内容表」はおおむね整合性が取れているが、新学習指導要領に基づき、学年の連続性・系統性が図られているといった点では、まだ課題が残っている。具体的には、新学習指導要領の「2 各段階の目標及び内容」に従い、各教科の指導内容表も段階を追って設定されていることが望ましい。また、シラバスの目標が学年が上がるごとに高次なものになっているかについても確認し、修正・調整することが必要である。

今年度は以上のような理由から、一つには、新学習指導要領「2 各段階の目標及び内容」に従い、1段階と2段階が明記された指導内容表の作成作業を進めることとしたい。なお、作成を進めるに当たっては、統一した様式に記載していただけるように準備する。二つには、シラバスの目標が、学年段階に応じて設定されているかを確認し、必要があれば修正していきたい。最後に、全学年の単元配列表も併せて再確認し、確定版を作成する。

(3) 研究の内容と方法

ア 令和2年(2020年)度 指導内容表の精査と修正

指導内容表が新学習指導要領の「2 各段階の目標及び内容」に基づいて作成されていることを係で点検し、結果を職員に提供する。必要があれば修正していただく。

共有フォルダー→教務連絡→R2教育計画データ→指導内容表R2(エクセル)

イ 令和2年(2020年)度 シラバスの精査と修正

シラバスの目標が学年が上がるごとに高次なものになっていることを係で点検し、結果を職員に提供する。

ウ 令和2年(2020年)度 全学年の単元配列表の精査

全学年の単元配列表を係で再確認し、結果を職員に提供する。

これらをまとめたデータは、ローカルの指定フォルダで全職員に公開、活用できるようにする。

(4) 推進日程

月日	会議・研修	主な内容
4月7日(火)	全体研修①	研究の概要、昨年度までの研究の確認
4月21日(火)	第1回研究推進委員会	今年度の研究の見通しについて
5月27日(火)	第2回研究推進委員会(臨時)	第8次研究計画の変更について
6月19日(金)	第3回研究推進委員会	今年度の研究計画について

6月26日(金)	全体研修②	4つの研究の計画発表
9月15日(火)	教科部会	指導内容表修正の進捗状況の確認
10月14日(水)	第4回研究推進委員会	4つの研究の進捗状況の確認
10月16日(金)	全体研修③	4つの研究の中間報告
1月8日(金)	教科部会	指導内容表修正の完了の確認
1月27日(水)	第5回研究推進委員会	4つの研究の成果・課題の確認、第8次研究のまとめ、次年度の研究についての検討
2月5日(金)	全体研修④	4つの研究の最終報告、第8次研究のまとめ
3月1日(月)	第6回研究推進委員会	次年度の研究についての検討

2 研究の実際

(1) 令和2年(2020年)度 指導内容表の精査と修正

各教科の指導内容表が、新学習指導要領に従い、1段階と2段階に分けて作成されているかを調べた結果、多くの教科において修正が必要であることが分かった。その後、各教科の担当教諭が修正作業に取り組み、2学期中に完了することができた。

(2) 令和2年(2020年)度 シラバスの精査と修正

プロジェクト研究Ⅰの係で、シラバスの目標が学年を追うごとに高次なものになっているかを調べた。その結果、全ての教科において、学年を追うごとに高次の目標を設定していることを確認することができた。

(3) 令和2年(2020年)度 全学年の単元配列表の精査

全学年の単元配列表を係で再確認した。昨年度と同様にシラバスとの整合性が取れていたため、これを確定版とする。

3 成果と課題

プロジェクト研究Ⅰでは、どの時期にどのような授業が行われているかを横断かつ縦断的に捉えて学習活動を設定できるように「単元配列表」を作成し、それに基づいた「シラバス」や「指導内容表」を作成してきた。そして、「単元配列表」、「シラバス」、「指導内容表」を新学習指導要領に合わせて整合性を図る作業を進めてきた。

今年度においては、新型コロナウイルスの影響によって臨時休業が続き、計画どおりに指導することが難しかったが、各教科等の目標達成を目指し、担当教諭は「シラバス」に工夫を加えながら実践することができた。また、教科等横断的な視点から、作業学習と数学、総合的な探究の時間と国語などを関連させながら授業実践することで、生徒の理解を深めることもできた。

次年度からは、プロジェクト研究Ⅰは研究として進行しなくても良いと考える。今後、学習指導要領の改訂や生徒の実態が変化していくことで、これまでプロジェクト研究Ⅰで作成してきたものが適さなくなる可能性がある。そのためにも、教育動向と生徒の実態の変化を見落とすことなく、学年、学科、分掌等の組織において「単元配列表」、「シラバス」、「指導内容表」を適宜、修正していく必要があると考える。

1 学年	第 1 単元	第 2 単元	第 3 単元	第 4 単元	第 5 単元	第 6 単元	第 7 単元	第 8 単元	第 9 単元	第 1 0 単元
国語	オリエンテーション	聞いたことや調べたことを参考に考えをまとめる		正しい言葉遣いとは？		読み手や聞き手を意識して文書	手紙を書こう		自分の考えについての主張 作文の交流と意見交換	
	国語の基礎知識・技能（通年） ※辞書の活用									
	ALTによる外国語授業（不定期）									
数学	オリエンテーション	数値の計測①（長さ、重さ、容積） 時間と時刻 お金の計算 数値の計測②（長さ、重さ、容積） 図形と数値理解 ※数学は学級単位で行っているため、学級の実態を踏まえて1年かけてこの内容を網羅していく。								復習とまとめ 応用問題
音楽	オリエンテーション	歌唱① 鑑賞① 身体表現（創作）	学校祭に向けて（歌唱②、鑑賞②、身体表現②）			器楽	歌唱③、卒業式に向けて、まとめ			
美術	オリエンテーション	「絵手紙をだそう」～水彩画～	「セロハンでサークルスタンドを作ろう」～工芸～ 「おまもりキーホルダーを作ろう」～工作～			「玉ねぎを描こう」	「キャラクターを銅板に描こう」～工芸	「水墨画を描こう」	「海の底を描こう（モダンテクニック）」～協同制作）	
体育	オリエンテーション スポーツテスト	体育祭種目 ソフトボール	水泳	サッカー	障がい者スポーツ フットサル	器械運動		クロスカントリースキー		フットサル
生 単 総 合	高校生になって	心とからだの学習①	交流を深めよう		生活する力を身につけよう①	社会見学	学校祭を成功させよう	生活する力を身につけよう②	心とからだの学習②	進級に向けて
	高校生になって		心とからだの学習（進路と絡めて）	交流を深めよう ～ピリカアウトドア～	現場実習～事前、事後指導～		ALT② 社会見学 ～事前、事後指導	学校祭を成功させよう パソコンの活用	生活する力を身につけよう②	まとめ
	・国・数・社・家・音・体(主に余暇、卒後の生活全般)との連携に留意									
作業学習	窯業の基礎	板づくりの基礎（学校祭に向けて）					銘々皿（野菜、石膏型）			
		外注品づくり								
	・理・数との連携に留意									
作業学習	オリエンテーション 玉ねぎ	玉ねぎ スイートコーン	玉ねぎ スイートコーン 畑作業	玉ねぎ スイートコーン 環境整備 大掃除	玉ねぎ スイートコーン	玉ねぎ 環境整備	玉ねぎ 畑作業	玉ねぎ 学校祭販売準備	玉ねぎ 除雪 洗い物 大掃除	除雪 大掃除 ジュニア播種 洗い物 玉ねぎ ジュニア
	・理・数との連携に留意									
家習業学	紙すきの基本を覚える	学校祭に向けて製品を作る					販売実習に向けて製品を作る			
	・理・数との連携に留意									
他作業科学習	窯業の基礎	板づくりの基礎（学校祭に向けて）					銘々皿（野菜、石膏型）			
	・理・数との連携に留意									
他作業科学習 農習	オリエンテーション	玉ねぎ スイートコーン			玉ねぎ 除雪 洗い物 大掃除			除雪 大掃除	ジュニア播種 除雪 洗い物	玉ねぎ ジュニア 除雪 洗い物
	・理・数との連携に留意									
他作業科学習 家習	ステンシル					紙すき				
	・理・数との連携に留意									
共通作業学習 種	車いす清掃（総合福祉施設）、回覧作業（町役場）、こども園内除草、運動会練習補助									
	・理・数との連携に留意									
つくり	夏季					冬季				
	・体育との連携に留意									

2 学年	第 1 単元	第 2 単元	第 3 単元	第 4 単元	第 5 単元	第 6 単元	第 7 単元	第 8 単元	第 9 単元	第 1 0 単元	
国 語	オリエンテーション			グループディスカッション				日本の言語文化に触れる			
	国語の基礎知識・技能（通年） ※辞書の活用、漢字コンテスト										
	ALTによる外国語授業（不定期）										
数 学	プレテスト オリエンテーション お金の計算 時間と時刻 数値の計測（長さ、重さ、容積）暦 図形 面積と体積 まとめ										
音 楽	オリエンテーション 歌唱① 鑑賞① 身体表現①（創作）			学校祭に向けて（歌唱②、鑑賞②、身体表現③）			器楽	歌唱③ 卒業式に向けて まとめ			
美 術	オリエンテーション 「塗り絵貼りサイコロキューブを作ろう」～工作～	「今金町の建物を描こう（コラージュ）」～デザイン～		「フクロウのレリーフを作ろう」～木彫り～		「○○なシーサーを作ろう」～彫塑～		「浮世絵の砂絵を作ろう」～デザイン～		「校舎内を描こう」～水彩～	
体 育	オリエンテーション スポーツテスト	サッカー	水泳	ソフトボール	バレーボール 器械運動	バスケットボール		クロスカントリースキー		フットサル	
生 単 総 合	2 年生になって	心とからだの学習③	生活する力を身に付けよう③		学校祭を成功させよう		心とからだの学習④	生活する力を身に付けよう④		進級に向けて	
	現場実習			宿泊研修		進路の学習				パソコンについて学ぶ	
	・国・数・社・家・音・体(主に余暇、卒後の生活全般)との連携に留意										
作 業 学 習	1年生を振り返る	学校祭に向けた製品づくり			販売会に向けた製品づくり						
	外注品づくり										
	・理・数との連携に留意										
作 業 学 習	オリエンテーション 玉ねぎ管理作業 ドライフラワー播種	豆類播種 ジャガイモ定植 ドライフラワー定植	花壇整備	ドライフラワー 収穫・乾燥 ジャガイモ収穫	豆類収穫・乾燥 豆類、ジャガイモ選別 ドライフラワー製品づくり プリムラ播種	学校祭生産物販売準備サイネリア播種	サイネリア・プリムラポット上げ	サイネリア・プリムラ管理作業	豆類選別 販売実習準備（ドライフラワー製品）	販売実習準備	
	・理・数との連携に留意										
作 業 学 習	紙すきの基本を覚える	学校祭に向けて製品を作る					販売実習に向けて製品を作る				
	・理・数との連携に留意										
他 学 習 業 科	紙工・紙すき										
	・理・数との連携に留意										
共 通 作 業 学 習	車いす清掃、回覧作業、レク補助										
つ く り	夏季					冬季					
	・体育との連携に留意										

3 学 年	第 1 単元	第 2 単元	第 3 単元	第 4 単元	第 5 単元	第 6 単元	第 7 単元	第 8 単元	第 9 単元	第 1 0 単元						
国 語	オリエンテーション	見学旅行	体育祭	敬語	前提実習	詩歌	学校祭	文書作成	卒業に向けて							
数 学	ブレテスト	オリエンテーション	お金の計算	時計と暦	量と測定	復習とまとめ	お金の計算				時計と暦	量と測定	復習とまとめ	応用問題		
音 楽	オリエンテーション				歌唱①	鑑賞①	身体表現①（創作）		学校祭に向けて		器楽	歌唱③		卒業式に向けて	まとめ	
美 術	オリエンテーション			版画「植物を版画で描こう」		デザイン「学校祭のポスターを作ろう」（レタリング）		デザイン「切り絵を作ろう」			伝統工芸「和紙染めで花模様を作ろう」					
体 育	オリエンテーション	スポーツテスト	ソフトボール	サッカー	水泳	障がい者スポーツ	バスケットボール		クロスカントリースキー							
	集団行動															
生 単 総 合	3 年生になって		心とからだの学習⑤	社会人としての暮らし方①		学校祭を成功させよう		社会人としての暮らし方②								
		見学旅行				前提実習										
	・国・数・社・家・音・体(主に余暇、卒後の生活全般)との連携に留意															
作 業 学 習	板作り より作り	粉砕 泥しょう作り	板作り		より作り	鋳込み	板作り		鋳込み	学校祭に向けて	校内販売会に向けて	校内販売会に向けて	卒業制作に向けて	校内販売会	卒業制作に向けて	
	鋳込み															
・数 美との連携に留意																
農 作 業 学 習	オリエンテーション	花壇用草花	シクラメン	シクラメン	カボチャ	ニンジン	環境整備	ミニシクラメン	カボチャ	ミニシクラメン	カボチャ	シクラメン	キンセンカ	ミニシクラメン	畑作業	卒業制作
	シクラメン	ミニシクラメン	カボチャ	A	ミニシクラメン	畑作業						鉢花の調整	キンセンカ	学校祭販売準備	ミニシクラメン	シクラメン
環境整備																
春の草花販売会																
・理 数学との連携に留意																
作 業 学 習	紙すき～校内受注製品、校外受注製品				紙すき～校内受注製品、学校祭製品				紙すき～卒業記念制作、校外受注製品、挨拶周り用							
	・理・数との連携に留意															
共 通 作 業 学 習	車いす清掃、回覧作業、レク補助															
	・国・道・体との連携に留意															
つ く り	夏季					冬季										
	・体育との連携に留意															

第2節 プロジェクト研究Ⅱ

1 研究の概要

(1) 研究主題

キャリア発達を促すためのカリキュラム・マネジメント
～新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築を目指して～

(2) 設定理由

本校で模擬株式会社を立ち上げて、4年目となる。生徒全員が社員となり、社員として働く意識をもち、社員として経験を積むための会社として、生徒主体の活動を行ってきた。昨年度からは、正式に委員会として組織ができ、各学級から1名選出され、計9名で活動を行っている。生徒は、模擬株式会社の中心となって仕事に取り組み、販売会等でお客様と関わる経験をすることで、仕事への責任感をもち、達成感につながっていた。また、委員会として模擬株式会社の活動を発信していくことで、他生徒も委員会の仕事を知ることができ、全校が協力して模擬株式会社を運営することにつながってきていると考える。

以上のことの踏まえ、今年度は、さらに生徒主体の活動を取り入れて実践する場を作るとともに、外部への発信を積極的に取り入れて行う。また、次年度は「深い学び」につながる取り組みを行うことを視野に入れて活動を行う。

(3) 研究の内容と方法

模擬株式会社運営を主に、委員会での取り組みを行う。

- ア QRコードを利用した学科紹介の作成
- イ HPを利用した学科情報の発信
- ウ 模擬株式会社総会の運営
- エ 仕入れ販売に関する業務
- オ 学校祭の販売会に向けた学習会
- カ ふるさと納税返礼品の商品検討
- キ 各種アンケート調査

以上7点について生徒主体の活動を取り入れ、実践する。ただし、新型コロナウイルスの影響で活動できない場合があることを留意して行っていく。

(4) 推進日程

下記の日程で進めていく。なお、QRコードの作成やHPの更新については、随時行っていく。

月日	委員会	主な内容
6月 2日(火)	第1回模擬株式会社委員会	役員の決定、年間活動計画作成
6月 16日(火)	第2回模擬株式会社委員会	ふるさと納税返礼品検討
6月 23日(火)	臨時模擬株式会社委員会	生徒総会準備、模擬株式会社総会準備
7月 7日(火)	第3回模擬株式会社委員会	仕入れ販売、コラボ商品検討①
8月 18日(火)	第4回模擬株式会社委員会	仕入れ販売、コラボ商品検討②
9月 8日(火)	第5回模擬株式会社委員会	仕入れ販売、コラボ商品検討③
9月 29日(火)	第6回模擬株式会社委員会	学校祭準備、仕入れ販売検討④
10月 6日(水)	第7回模擬株式会社委員会	学校祭準備、仕入れ販売検討⑤
10月 20日(火)	第8回模擬株式会社委員会	学校祭準備、学習会、仕入れ販売検討⑥

10月 29日(火)	第9回模擬株式会社委員会	学校祭準備、学習会
11月 10日(火)	第10回模擬株式会社委員会	学校祭準備
12月 1日(火)	第11回模擬株式会社委員会	学校祭事後アンケート①
12月 15日(火)	第12回模擬株式会社委員会	学校祭事後アンケート②
1月 26日(火)	第13回模擬株式会社委員会	生徒総会準備、事業報告準備①、総会
2月 9日(火)	第14回模擬株式会社委員会	事業報告準備②
3月 9日(火)	第15回模擬株式会社委員会	まとめ

2 研究の実際

(1) 模擬株式会社総会の運営

模擬株式会社総会は、令和2年6月29日(月)の2時間目に行った(写真1)。例年、体育館で全校生徒が集まる中で行っていたが、新型コロナウイルス感染対策のため、各教室での実施であった。各ホームルームの模擬株式会社委員が資料を説明することで、生徒間の模擬株式会社の仕組みや取り組み等の共通理解を図った。



写真1. 各教室で行われた総会

(2) ふるさと納税返礼品の商品検討

ふるさと納税返礼品は、今年度は、各学科の製品を入れて本校から2セットの提案をすることとなった。模擬株式会社委員会では、各学科で製品の組み合わせや全学年が関わって行うことができる内容等の検討を行い、決定した。今年度は、グラタン皿、タマネギ、ランチョンマットの玉ねぎ食卓セットと豆3種、小鉢、ランチョンマットの豆まめセットの2セットの販売となった。

(3) 仕入れ販売に関する業務

学校祭の販売会で使用する仕入れ商品の検討を行った。各学科で製品の検討をし、学科内でアンケート調査をしたのち、仕入れる商品を決定した。窯業科では、ご当地のカップラーメン、農業科では、今金町内で販売されているお菓子等、家庭総合科では、ご当地スイーツとカレーを選抜し、アンケートを実施した。模擬株式会社委員会では、アンケートやポスター作成、集計等を行い、仕入れ商品の決定まで話し合いを通じて行われた。

(4) 学校祭の販売会に向けた学習会

販売会に向けた学習会は、10月20日(火)3、4時間目に行った(写真2)。今年度は、日乃出食品株式会社に講師を依頼し、「働くこと」についてのお話をしていただいた。コロナ感染対策のため、1、3学年が体育館で直接聞き、2学年が格技場にてリモートで行う形で、模擬株式会社委員会司会や挨拶等の運営を行った。



写真 2. 学習会の様子

(5) 各種アンケート調査

アンケートは2種類行った。一つ目は、学校祭販売会についてである。来場していただいた保護者の方に、製品や接客についてアンケート調査を行った。二つ目は、模擬株式会社委員会の活動についてである。本校の生徒を対象として、模擬株式会社委員会の活動内容の理解や興味関心等について調査を行った。この2つのアンケートについては、委員会内で集計を行った。

(6) QRコードを利用した学科紹介

学校祭販売会に来てくださる保護者向けに、各学科、仕入れ商品等の紹介をQRコードにして掲示した。今年度は、保護者が各ホームルーム教室で待機をする時間があったことから、各ホームルーム教室に掲示した。

(7) HPを利用した学科情報の発信

学校祭後、各学科での取り組みについて紹介するHP用原稿の作成を行った。現在の作業学習の様子や作っている製品等の説明文を模擬株式会社委員が考え、HP掲載へとつなげた。

3 成果と課題

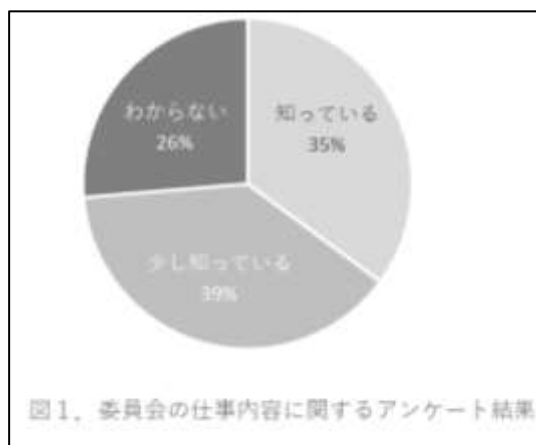
模擬株式会社委員会は4年目となる。基本的に生徒主体での活動を主として取り組みを行っているが、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、臨時休校に伴う活動の減少や大勢が集まる集会等を例年通りに行うことができないことが多かった。その中でも、生徒は状況に合わせた対応をして活動に取り組むことができた。

まず、生徒主体の活動であるが、仕入れ商品やふるさと納税返礼品の検討については、「お客様視点」で考えることができるようになった。1～3年生が合同で活動する中で、販売についてあまり分からない1年生に経験豊富な3年生が考え方を伝える場面があった。これは自分たちの製品を売る販売や返礼品の中で、お客様に見て、買っていただくためには何ができるかを考えた末の行動である。自分たちで取り組むものをより良くしたいという思いから、主体的な行動につながっていったと考えられる。

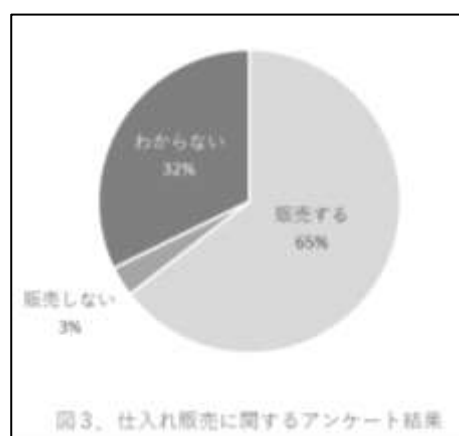
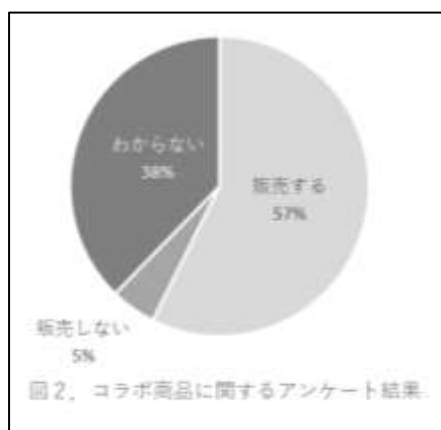
また、自分たちの活動の発信も行うことができた。校内への発信では、6月に模擬株式会社総会の運営を行った。模擬株式会社委員が、各ホームルームで模擬株式会社についての説明を行った。各学科で行っていることや製品の販売会について、委員会が中心で行うこと等の説明をし、全校生徒が社員であることを伝えることができた。校外への発信については、HPの活用やふるさと納税返礼品、QRコードを通しての発信となった。作業学習の様子や製品を通じて、自分たちが取り組んでいることや頑張っていることを発信することで、保護者や町民の方、受検を考えている中学生、もっと遠くの地域の方に興味を持っていただくきっかけになったのではないだろうか。

アンケートの活用も行った。学校祭の販売会についてのアンケートでは、集計したものを各学科の反省会等で使用し、生徒と振り返りを行う資料として活用した。アンケートを記入していただくことに感謝するとともに、生徒が来年度に向けて改善点を考えるために活用することができた。

模擬株式会社委員会に関するアンケートは、模擬株式会社委員会の仕事についての認知度を確認することができた。項目は、仕入れ販売について、コラボ商品について、模擬株式会社委員会の仕事内容についての3点である。模擬株式会社委員会の仕事内容については、7割程度の生徒が仕事内容を少しでも知っているという結果であった(図1)。模擬株式会社委員会の生徒が前に立って話す機会も多いことから、大まかな内容は理解していたのではないだろうか。



また、仕入れ販売とコラボ商品については「来年も販売したほうが良い」と考えている生徒は、6割程度であった(図2、図3)。昨年度は、7割を超えていたことから、減ってしまっている。その中で、「わからない」と回答している生徒は、3割～4割であり、昨年度よりも増えた結果となった。この結果から、今年度、仕入れ販売とコラボ商品について周知が足りず、全校生徒があまり分かっていないまま販売していたのではないかと考える。



アンケート結果から、大まかな内容を理解しているが、具体的な内容や実際の活動を周知できていなかったため、来年度どのように活用していくかを考えることができなかった生徒が多くなってしまったと感じた。今後は、総会の内容を精査や模擬株式会社委員から学級内での発信等を行い、より理解してもらえるように工夫していきたい。

以上のように、模擬株式会社委員会での活動を中心に研究を進めてきた。新型コロナウイルスの影響で昨年度のように活動が行うことができないものもあったが、模擬株式会社の仕事や役割等が全校生徒に理解されつつあり、翌年へと引き継ぐために生徒自身が様々な工夫をすることができた。また、委員会での活動は生徒主体で行うことが浸透してきていることから、第8次研究の主題を達成できていると考える。今後も、生徒主体の活動を維持しつつ、深い学びにつながるように活動を継続させていきたい。